

仕事場訪問

No. 22

「池中玄太80キロ」「玉ねぎむいたら」の

松木ひろし

新宿から京王電車で20分
つじヶ丘駅下車
名刹深大寺・神代植物園に近く
緑ゆたかな住宅地にある松木邸



仕事部屋で愛犬と

松木ひろし作品

昭和	題名	制作局
43	「フルーツポンチ3対3」	NET
44	「レモンスカッシュ4対4」	◆
45	「だいこんの花」	◆
48	「雑居時代」	NTV
48	「黄色いトマト」	NET
51	「気まぐれ天使」	NTV
52	「気まぐれ本格派」	NTV
54	「天山先生本日も多忙」	テレ朝
54	「聖女房」	NTV
55	「ある日突然!!スパゲティ」	テレ朝
55	「池中玄太80キロ」	NTV
55	「七人の軍隊」(単発)	フジ
56	「大誘拐」(単発)	NTV
56	「玉ねぎむいたら」	TBS

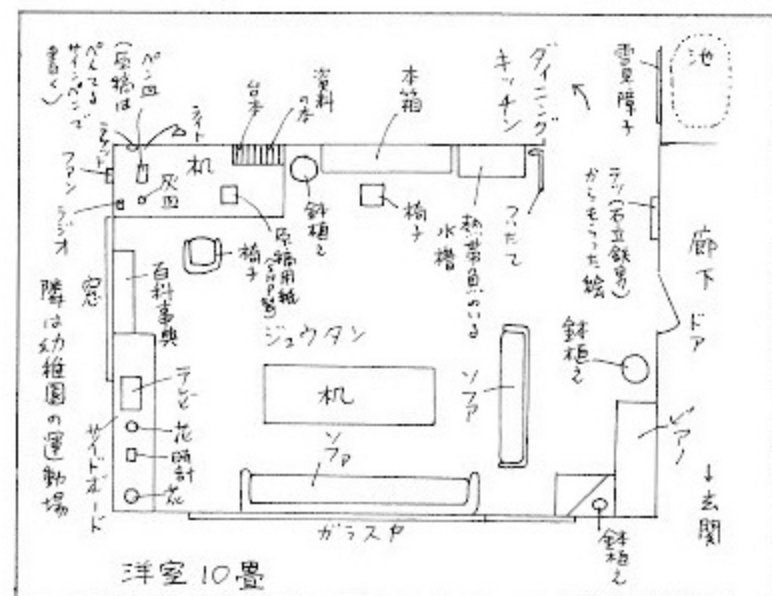
他多数



松木ひろし邸

僕はストレートにぶつける
ドラマはあまり好きじゃない
やっぱり楽しいドラマを
作りたい

仕事部屋見取図



ホテルで仕事されることはありますか？
そう多くはないです。ホテルっていうのは集中的に仕事することもあるんですけど、局とか原稿を待ってる側が安心するんです。此処にいると何してるか分かんない、ホテルに入ったら、まあ一応は仕事してるんだらう(笑)。ホテル入ったからって能率的に書けるわけじゃないし、むしろ気分転換が出来る

家を新しくすると、やっぱり家具もってことで、家具だけで二百万ぐらいかかったかな、大した物買ってないんですけどね。
お仕事時間は昼ですか？
昼間、わりとのんびりやって、夜から明け方まで書いて、昼前ぐらいまで寝るとい感じですね。だから、ベッドに入らないで机の上に足挙げて寝ちゃったり、ソファで寝たりすることもあります。夜中に二階のベッドルームに行くと、犬が吠えるんでね、ママを守って一緒に寝てるもんだから……(笑)。
親父の威厳って全くないんですよ。机の前で眠っているとかね、原稿取りに来た人に謝るとか(笑)テレビ見りや変なもの書いてるみたい……。親父の仕事に対する神秘性ってのがありませんからねえ、会社に行きや何やってるか分からないから、家へ帰ってきて偉そうな顔してればいいんだけど。教育上悪いですね。

新築、二階建の大変素敵なお家ですね。いや、建売なんですけど、すこし改築して……。洋間は子供部屋(編集部注・大学生と高校生の息子さん)と寝室にとられて、僕は応接間に机置くことになっちゃってね……(笑)。僕は和室じゃ仕事出来ないんです。坐ってる腰が痛くなっちゃうんです。大変大きな、新しいお机ですが……引越しの時、椅子も机も新しく買いました。

前の所(牛込)は、フジテレビや日本テレビに近くて便利はいいんですけどね。やっぱり、郊外志向ってのがあったもんですから。四、五年たったらこっちはもう稼げないだろうし、この辺で、最後のチャンスだと思って……(笑)。
空気がちがいますね。前は公害で有名な柳町の近くでしたし……。ただ、冬は都内よりちょっと寒いですね。それと、人情ってのかな、人がわりと良いんですよ。都内で車運転してても、狭い道ですれ違う時なんか絶対に待たないで向こうから割込んでくるんだけどこは必ず待ったり、手挙げたり、マナーっていうのかな、近所づき合いなんかでもないんです。

11年住んだ新宿区牛込から
去年の暮に引っ越してきて……



「池中玄太80キ口」

奴がいなくてね。スタジオやりたかったんですが、まア、それでも時々やらせて貰いました。で、「ぼうふら紳士」っていうコメディを演出した時に、脚本が間に合わなくて自分で書いてしまったんです。(編集部注・この間のことは本誌八〇年三月号、デビュー作の頃、に詳しい) そんなこともあって、チョコクック書いてて、三十一歳になってたかな、独立のめどか立ったんで、辞めました。辞めた途端に仕事が殺到して、一週間に八本書いたこともありますよ。

— その時からコメディが多かったですか？
ええ、書いた芝居もブル・パールだった



高校時代のスナップ (右端が松木氏)

い。大きな部屋じゃないし、牢屋みたいな……僕なんか一週間ぐらいいると閉所恐怖症みたいになっちゃってね。でも、飯が一番イヤですね、一人じゃ外の食堂行ってもサエないんでルームサービスにすると、だいたい品物がきまつてるんでね、一週間もいると食べる物なくなっちゃう。夜中でも食べられるのはいいですけどね。

家に居る時も、僕は食べたい時にしか食べないんでね。片づかないから一緒に食べてって言われるけど、昼に朝めし食べて、夕方に食べて、夜中に食べるみたいなこと……。



「玉ねぎむいたら」

し、見る映画もルビッチ、クレール、ピリール、ワイルダーやユニバーサルコメディ。しゃれたあいう系統の大人の喜劇が好きだったんです。日本では飯沢(匡)先生のものとか……。

僕は、ストレートにぶつけるドラマっていうのはあまり好きじゃないんです。台辞一つでも、横っちょから見るとか裏からひっくり返すとか、変化球専門っていうんですかね、そうなるよ、やっぱりコメディってことになっちゃうんですね。

僕が高校生の時は戦時中でしたからね、文科系の大学へ入ると兵隊にとられる。理科系の学生は兵役免除になるんで、理科系のクラスに居たんです。そのうち戦争が終ったんですが、そんなことで東大の建築受けて落ちた。その浪人中にまず、映画をやりたいと思って、鎌倉アカデミーの夜間講座が東京であって、映画の勉強してたんです。ところが、つぶれちゃったんで、仲間と劇団を作って芝居してた。その中、お金が無くなって芝居関係の仕事を探してたら、たまたま明治座の文

シナリオライターになるまで 舞台・ラジオ・テレビの世界を歩む

芸部に入れたんですね。僕がやってたのは新劇ばかりで、いわゆる商業演劇ってやつを初め毛嫌いしてたんだけど、新派とか新国劇見てるうちに、どうしたらお客さんの気持ちをつかまえられるか……そういうコツみたいなものを、知らず知らずのうちに覚えましてね。(昭和)二十五年に入って、二十九年に辞めたんです。

机の上



僕のはシチュエーションコメディ

楽しいドラマを作りたい

僕のは要するにシチュエーションコメディ。展開の発想が一番先でテーマはそのあと。発想が面白くないと自分でも乗らないんです。

普通のホームドラマでも、お父さんがいてお母さんがいて子供がいてっていうんじゃないんで、家庭っていうのは、母親の要素が一番強いんだから、じゃあ逆に母親が居なかったらどうなるか……そういう消去法とか、世間も男も何も知ってる女がカマトトで、逆に何にも知らない男が、わざと悪ぶって、その二人が会ったらどうなるか……だとか。(パス・ストップ)その種の簡単な発想です。

「玄太」の場合も、コブつきの女をもらって、その女が死んじゃって、他人の子供だけ残ったらどうなるだろうっていう、その程度の単純な発想なんですけどね。それと、演出の冠(石橋)チャンのいう、父親が見直されてきた時代……そういうものと合わさって出来たんです。あとは人物設定ですね。

僕の主義として、見終って感動してあとに残るとか、その芝居見て人生変わったとか、そういうの苦手なんです。(笑)やっぱり楽しいドラマを作りたい。テーマは僕は第二義

的になっちゃう。それよりも話の面白さ、そこがテレビのホームドラマとちよつと合ったのかも知れない。ただ、それが失敗すると軽くなっちゃうんだな。自分でもどうにも動かせなくなっちゃって流れちゃうんですね。それだけは気を付けないといけないですよ。

——シナリオを書く上で心がけてることは？
昔は映画を見ても芝居を見てもシビレたセリフがあるとメモしてたんですよ。僕はやっぱりセリフが自分の作品の命だと思ってるから、しゃれた会話って好きなんです。語尾一つ、ますにするか、ましたにするのか一時間ぐらい考えることがある。それで必ず自分でしゃべってみますね、一人でブツブツ。役者さんが、松ちゃんのホンはセリフが言いやすいよ、って言うってくれるのが一番嬉しいです。

——構成はどのように……

一応、ハコ（箱書）は作ります。昔、東宝の映画を初めて書いた時に、プロデューサーからハコ書きを教わったんです。シーンを全部書いて、登場人物は何人で、会話はこういうことって、細かく書くんです。紙をつなげて一米以上のもので、そのハコ作りが大変ですね。

テレビの場合は、そんなことやられてられないんで簡単にシーンと登場人物の出入りを矢印で書くぐらいの、ペラで二、三枚のコンテ

を作ってる書いてます。作らないで書く人もいるけど、僕はやっぱり一応ラストシーンまで考えないとちよつと書けないです。書きだして途中でもう一回考え直すこともありますね、書いてるうちに変わっちゃう……不思議なもので連続（ドラマ）ってのは、こっちの意志と違って登場人物が勝手に動きだすのね、不思議だね、あれは——。

今はテレビよりも

芝居を書きたいと思ってる

——趣味は？

お酒飲めないもんだから気分転換にバクチやるんですよ。競馬場（府中の東京競馬場）に近くなつていいなと思つたら、かえって買わなくなつた。まア、やんなきゃやらないでも済むんです。麻雀は好きですね。

あと、絵を描きます。水彩画ですけど。

——スポーツは？

ゴルフとテニスと野球。子供の頃から野球が好きでね、プロ野球は父のお供で沢村時代から見てるんですよ。終戦の詔勅を聞きながら、「ああ、これで又野球が出来る」と考えてた。ひどい国民だね（笑）。それくらい好きでしたね。そこで高校で野球部へ入ろうと思つたら運動神経のいい奴つてのは各部から引っぱられるんで、結局テニス部に入れられて……。

このあたりはテニスクラブも多いんで、仕事が一番落したら又ラケットを振ろうかなと思ってるんです。

——健康状態は？

歯が悪いのと痔が悪いのと……入口と出口が悪いだけで（笑）中味はわりと丈夫なんです。小さい時から病院に入ったことがないんですよ。でも、よく身体もつてると自分でも思いますね。

——タバコは？

最近ちよつとまた増えてきました。仕事の時と麻雀の時が一番多いんですけど、マイルドセブンを一日に二箱か二箱半ぐらい。

——今後、手がけてみたいお仕事は？

最終的には小説書いてみたいんです。テレビってのはあんまり制約が多すぎるんですよ、一時間以内にはめろとか、セットはこれにしろとか役者は誰にしろとか……。一番制約のないのは小説ですからね、やっぱり活字にして、死んだ後に何か皮を残したいってことはあるんですよ。

当面は、しばらくやってみせから芝居を書きたいですね。テレビだと反応がないから。

——この秋、テレビのご予定は？

単発が二本きてますけど、連続は、まだハッキリきまってません。

（5月21日）